

1-3					
主題	在宅生活継続の為に必要な支援				
副題	多職種連携について				
キーワード 1	歩行能力	キーワード 2	医療	研究(実践)期間	12ヶ月

法人名・事業所名	社福) 奉優会 等々力の家デイホーム
発表者(職種)	山根圭以子(介護職)
共同研究(実践)者	亀ヶ谷潤一(理学療法士)、三浦由美(看護師)

電話	03-5752-0037	FAX	03-5752-0067
----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	<p>等々力の家「特養併設デイ」</p> <p>等々力の家デイホームは在宅生活サポートデイとして、法人独自のサービス(公益型混合介護サービス)を提供しています。送迎時の居室内介助、無料ヘアカットサービス、夕食サービスお買物支援などを、通所サービスに無償または低額で提供することで、住み慣れた地域でその方の望む在宅生活を支援しています。また生活の楽しみ、喜び、生きがいに繋がるよう個別性の高いプログラムの提供を目指しております。</p>
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

等々力の家デイホームは「遊歩クラブ」を立ち上げて14年目になります。登録者70名の「歩けるデイ」として取り組んで参りました。在宅生活継続の為に、歩行能力は日常生活動作を行う上で欠かすことが出来なく重要と取り組んできました。一方、新型コロナウイルス蔓延の中、病院受診を控える方が以前より増え、重度化して自宅療養や入院されてしまう方が多くなっていました。ご利用者、ご家族が望む安心して在宅生活が継続するために専門職、医療連携の重要性も感じました。遊歩クラブを継続して利用されることでわかる歩行変化、またデイご利用中のご利用者様の体調の変化に気づくことで、転倒予防や早期発見・早期治療に繋がり入院せず在宅での生活を続けることが出来ると考えました。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

歩行は日常生活動作において欠かせないものであり歩行の変化は日常生活動作のレベルの低下につながると思う。在宅生活継続の為に歩行能力を維持することが日常生活機能低下を防ぐことに繋がり転倒も未然に防いでいくことに繋がるのではないかと考えた。

又、医療の方でも本人の日ごころの様子から変化にいち早く気づくことが結果、重症化を予防できると仮説を立てた。

《3. 具体的な取り組みの内容》

① 遊歩クラブでの歩行練習と AI による歩行分析結果を踏まえた理学療法士による個別練習の効果を検証する。

・遊歩クラブ

1日あたり200~400メートル程度の歩行を能力に合わせて実施。

デイの利用回数に合わせて、1 週間あたり 1～4 回程度。

スタッフの構成は介護職 9 人、理学療法士 2 人、看護師 3 人

• 理学療法士による個別練習

遊歩クラブに加え、AI による歩行分析も参考に理学療法士が各人の有する問題点を抽出し個別練習を実施する。

A 様：(88 歳・女性) セラバンドを用いた下肢筋力練習と上肢の運動

歩行速度が低下、10 年前よりシルバーカーを使用しているが方向転換時のふらつき顕著に見られる。

② 医療：相談員からの情報をもとに、看護によりファイル作成、既往歴、現在治療中の病気、薬情報記入した。

医療知識などの勉強会を開催し介護職の知識を深め、日ごろのケアに生かしていく。

入浴時毎回、皮膚観察。少しの変化も見逃すことなく、写真で記録しご家族ケアマネに報告

《4. 取り組みの結果》

①A 様：歩行回数も 5 往復と維持、下肢筋力は維持が見られているが、方向転換時のふらつきは改善されず転倒予防のために歩行器の導入を検討したところ、ふらつき改善が見られている。

②入浴利用の A 様：入浴時に広範囲に発赤を確認。1 週間でさらに広範囲に広がる。

息子様より軟膏の持参あり塗布を開始するも、1 か月後足にまで広がっているのを報告皮膚科受診して下さり帯状疱疹と診断。訪問看護と連携し 2 週間ほどで完治。

皮膚科受診は 1 度だけで、就労されているご家族の負担とご本人の負担を軽減できた。

《5. 考察、まとめ》

筋力・バランス能力・手指機能を保つためには上肢活動が重要であることが分かった。下肢筋力が高くなることでさらに椅子などからの立ち上がり、入浴トイレなど日常生活動作の維持ができるとわかりご自宅やデイでも転倒は見られていない。遊歩クラブだけでなく AI による歩行分析を用い、歩行時の身体のバランスや課題等が可視化され、さらに理学療法士の専門的なアドバイスにより本人やご家族と課題を共有することでモチベーションに繋がっている。

入浴サービスを定期的にご利用により、皮膚観察にて疾患にいち早く気づくことが出来また写真に記録していくことで経過を観察でき重度化予防、早期治療に繋げることが出来た。

医療・理学療法士などの専門職と介護職で連携することで重度化することなく在宅生活継続出来ている。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

高齢者理学療法学テキスト 改訂第 2 版 南江堂

《8. 提案と発信》

遊歩クラブでは理学療法士による専門的なアドバイスと合わせて AI による歩行分析データを活用し、根拠に基づいた科学的な介護を提供していくことで、サービスの向上に繋がっていかれたらと考えています。

今後益々デイ利用者が重度化することも考えられる為医療と連携する事で在宅生活継続支援につなげたい。